



(日本経済、めっちゃ
好調なんだなー！
なんだか俺まで
嬉しくなってくるぞ！)

おっ！今日も
日経平均株価が
上がってる！

おっ！今日も
日経平均株価が
上がってる！



日経平均とは、
日本経済そのもので
ではありません。

東証プライム市場から
選ばれた『225社』の
集合体に過ぎないのです。



ええっ!?
日本全体の
こじやないの!?





しかも『平均』という言葉は魔法です。
一部の巨大な企業が
大きく上昇すれば、
全体の平均は簡単に
押し上げられます。

少数の大型銘柄が動
くだけで、市場全体が
好調でなくても
数字だけが上がる現象
が起きるのです。

じゃあ、
この上がった数字って
一体なんなんだよ…

現実そのものではなく、
現実を簡略化した
『一つの表現』に過ぎません。
平均は便利な道具ですが、
真実そのものでは
ないのです。

ちなみに、
市場全体を見る
『TOPIX』という
指標もあります。
こちらは時価総額を基準に、
東証全体を映し出します。



同じ日本の
市場なのに、
見え方が全然違う……！



(なるほど…
どっちか片方だけ
見てちゃ、
本質を見誤るんだ。)

どちらが正しいという話
話でありません。
選ばれた部分(一)を見て
全体(全)を知るか、
全体を見て部分を知るかの
知るかの違いです。

問題は数字そのものではない。
数字との向き合い方である。

上がって安心し、
下って不安になる。
これは市場を見ているようで、
実は『感情に振り回されている』
だけなのです。



投資に限らず、
SNSのフォロワー数や
評価の数字も同じです。
本来は観測するための『道具』なのに、
いつの間にか自分の価値そのものだと
思い込み、道具に使われてしまう人が
多すぎるのです。

20,036

1

学テスト

65

だからこそ、価格（数字）
を見るのではなく、
その裏側にある『構造』
を見るのです。



なぜ上がったのか？
どこに偏りがあるのか？
どんな心理が働いているのか？
表面だけを追わず、
裏側を観察してください。

メンター

まずは『ミクロ』を見る。
一本の木をじっくり観察するように、
個別企業、一つ一つの事業、経営者や
商品を深く見る視点です。



次に『マクロ』を見る。森全体を見渡すように、
景気、金利、為替、国家政策、そして世界情勢という
大きな流れを捉える視点です。



木を見て、森を見る。そして再び木を見る。
ミクロとマクロを『往復』すること。
この循環こそが、本質を見る力を育てるのです。



(その裏側にある『構造』を
観なきゃいけなかったんだ!)

そうか…数字は
ただの『地図』なんだ。
地図そのものに一喜一憂
するんじゃないくて…

日経平均株価が上がった。
下がった。
その事実だけで判断しない。

数字に踊らされるのではなく、
数字を読み解く側へ。



それが、指標との
本当の向き合い方。